

令和4年度第2回

幸手市総合教育会議議事録

招 集 期 日	令和5年2月24日（金）午後4時00分					
開 会 場 所	幸手市役所第二庁舎 2階 第1会議室A					
開 会 の 日 時	令和5年2月24日（金）午後4時00分					
閉 会 の 日 時	令和5年2月24日（金）午後4時56分					
出席状況	職 名	氏 名	摘 要	職 名	氏 名	摘 要
	市 長	木村 純夫	出席	教育委員	高島 勝也	出席
	教 育 長	山西 実	出席	教育委員	藤沼 寛次	出席
	職務代理者	会田 研司	出席	教育委員	古沢 万友実	出席
	教育委員	岩崎 万紀子	出席			
傍聴人：0人				書記：大竹 孝典・河口 奈緒		
議事参与者	職 名	氏 名	職 名	氏 名		
	総合政策部長	落合 和典				
	教 育 部 長	小林 秀樹				
	政 策 課 長	中野 仁美				
	総 務 課 長	服部 道春				
	学校教育課長	堀越 成夫				
	社会教育課長	仙田 茂雄				
政策課主席主幹	松本 直樹					

議 事	顛 末
<p>開 会 午後 4 時 00 分</p> <p>あいさつ</p> <p>日程第 1 協議調整事項 及び報告事項 協議調整事項第 2 号 当面するの教育上の諸 課題</p>	<p>教育部長 開会を宣する。</p> <p>市長 あいさつする。</p> <p>教育部長 幸手市いじめ問題調査委員会の調査報告書公開後の経過報告、及び 2 月 14 日に開催された教育委員会定例会の協議事項の内容を事務局から報告する。</p> <p>学校教育課長 調査報告書公開後の経過報告を資料に基づき説明する。</p> <p>総務課長 教育委員会定例会の協議事項報告の内容を資料に基づき説明する。</p> <p>《意見交換》</p> <p>藤沼委員 令和 4 年度幸手市教育行政重点施策では、学校教育分野と社会教育分野で計 84 の主な事業を掲げ、教育行政の推進に取り組んでいる。 このうち、学校教育分野では、1.いじめ、2.教師の過重労働、3.学校再編、4.県学力学習状況調査の成績向上、5.学校における魅力ある職場づくり、6.部活動の地域移行、7.非認知能力の向上、8.G I G Aスクールの運用定着、9.その他、児童・生徒の第 3 の居場所づくり、の課題があると思われる。これらの課題は、学校、家庭や地域、教育委員会の組織や制度・ルールと複雑に絡み合っている。令和 5 年度に向けて、未来を目指した新しい教育委員会の組織づくりなどを行いながら、課題を解消して成果を上げていかなければならない。これらの課題のうち、いじめについて意見を申し上げたい。 いじめに対する目標は、予防ではなく 0 件にすることを掲げなければ、子どもたちを幸せにするような改革はできない。 いじめが無くならない背景の一つとして、家庭の経済</p>

格差がある。国は、自己責任の言葉で片づけているが、いじめの加害者は社会に出たら相手にしてもらえなくなるし、被害者は人生のチャンスを失い、もっと大きな害を被ることになるかもしれない。

また、良い噂は自然と広まるが、悪い噂は未来永劫語り継がれるので、いじめを無くさないと人口減少を加速させることになるかもしれない。

そこで、私が考える解決策を2点申し上げる。

1点目は、SC（スクールカウンセラー）とSSW（スクールソーシャルワーカー）の資質向上と指揮の系統化である。ここ3年で子どもたちを取り巻く環境は大きく変化してきているのに、SCとSSWは旧態依然の体制であるので、改革が必要だと思う。

2点目は、教員の意識改革である。令和2年度の幸手市立小・中学校評価のうち、学校の相談体制に関する設問で、肯定的な回答をした生徒と保護者の割合が、共に低い傾向にあった。教員の意識を改革し、肯定的な回答100パーセントを目指さなければならない。

なお今後、様々な課題を解決していくためには、組織として迅速に対応するとともに、今までの経験に頼らず、問題分析の手法を使って取り組んでいかなければならない。

岩崎委員

いじめは、0件になることが望ましいが、決して無くなることはないと思う。解消していくためには、解消に向けた取組の経過や結果を共有していくことが大事だと思うので、今後も適宜、情報共有していただきたい。

また、いじめは、される側の受け取り方で変わってくる部分もあるので、子どものメンタル面を育てる教育にも取り組んでいただきたい。

古沢委員

いじめに悩んでいる子どもは、今もいると思う。予防することも大事だが、全て助けてもらえるとは限らないので、子どもたちには、生きる力を持って自ら乗り越えてほしい。そのためにも行政には、生きる力を育むことと、子どもたちの居場所を作っていくことが求められている。

デジタル化が進み、子どもたちは知識を手軽に得られるようになったが、その反面、原体験が減っていることを

懸念している。

しかし、幸手市では、コロナ禍でも感染対策を行いながら宿泊学習を実施したり、企業体験や農業体験を実施したりするなど、子どもたちが様々な体験ができる機会を設けているので、これからも是非、続けていただきたい。

体験をとおして子どもたちが幸手市に誇りを持ち、大人になった時に結婚や出産を機に、再び幸手市で暮らしたいと思えるようなまちづくりを我々大人たちができたらよいと思う。

高島委員

今回の調査報告書の公開を機に、今後、どうしていくかということ共有することが重要だと思う。

過去に、他市の小学校で、駅伝の練習中に児童が倒れて救急搬送され、その後亡くなるという痛ましい事故があった。その後、亡くなった児童の保護者の御理解もいただきながら、この時の対応を振り返って教訓を明らかにし、教員研修のためのテキストとして「ASUKAモデル」を作成したことがあった。

2月の教育委員会定例会で学校教育課長から、今回の調査報告書を全ての教職員が一読し、その後、意見交換を行った学校があったとの報告があったが、全ての教職員が情報共有し、教訓を生かしていくことは大事である。

子どもや保護者に最初に相対するのは教職員なので、今回の件を機に、教職員の資質向上や体制の見直しを図るとともに、教職員同士が互いに支え合える雰囲気づくりをしていくことが重要だと思う。

会田職務代理者

これを機に改めて各校長には、リーダーシップを発揮して学校の現状把握と指導体制の見直しに取り組んでいただきたい。

私は現在、教員を目指す学生の面接指導や討論のノウハウを教える機会があるが、自分が学生の頃と比較すると、今の学生は非常に優秀だと感じる。しかし、学校という組織の中で、その良さが生かされていないような気がする。

学校での取組も必要だが、教育委員会としても良い資質を持った若い教員が、カウンセリング能力やコミュニケーション能力を身に付けられる機会を与えるなどの支

援を行ってほしい。

教育部長

これまでの御意見等を踏まえて、教育長から御意見を
いただきたい。

教育長

各委員からの意見を真摯に受け止め、今後に役立てたい。教職員が、子どもや保護者との関係や、教職員同士の問題に直面した時、これを冷静に受け止め、しっかりと改善に直結する形で取り組めるよう、問題分析の手法の構築について改めて伝えていきたい。

また、知識偏重に陥らない教育の中で、子どもたちがいかに生きる力を付けていくかといった、トータルとしての教育についても改めて見直していかなければならないと感じた。原体験による豊かな心の育成の話があったが、私は、子どもが感じる心の揺れ幅の度合いが、豊か心の育成に繋がると考えている。子どもたちの人格形成に及ぼす学校教育の役割についても改めて見直さなければならぬと感じた。

さらに、日頃から教育の原点は、教職員と子どもの接点の上に成り立っているということを校長会等で申し上げているが、教職員と子どもの接点にどういう火花が散っているのかということをしつかりと捉えられるようにならなければならない。そのためには、教員の資質能力の育成や組織力の向上が必要だと考えている。

年度内にできることと、来年度に繋がる課題と分けて今後、対応していきたい。

教育部長

市長から総括をお願いする

市長

非常に示唆に富んだ内容であった。いただいた御意見を紐解いた上で、一つ一つ丁寧に対応していくことが、いじめの解消に繋がると感じた。

今回の話題から少し外れるかもしれないが、3点申し上げる。

1点目は、私は40年ほど前に、神奈川県寒川町の銅箔工場に勤めていたが、死亡事故も含めて年中事故があった。そこで、「その注意ありがとう運動」を企画し、職員が互いに身だしなみ等で気付いたことを指摘しあい、そ

<p>日程第2 その他</p> <p>閉 会 午後4時56分</p>	<p>の都度、百円を貯金するといった取組を行ったことがあり、これが結構好評だった。公共の場で同様の取組を行うことは難しいが、人の注意をありがとうと受け止め、互いに褒め合うという点では、教育委員会定例会で委員から提案があった目安箱の設置と通じるところがあると感じた。</p> <p>2点目は、同じく教育委員会定例会の協議事項報告の中で、「成功は偶然から生まれることが多いので、あまり参考にならないが、失敗には必ず要因があるので、その失敗例を教職員同士が総括して共有することで再発防止に繋がる」との話があったが、これは、松浦静山の格言「勝ちに不思議の勝ちあり、負けに不思議の負けなし」から出た話かと思う。私も常々思っていることである。是非、今後の対応に生かしていただきたい。</p> <p>3点目は、予防保全が大事だということを申し上げたい。「1件の重大事故の裏には29件の軽微な事故と300件の怪我に至らない事故がある」というハインリッヒの法則があるが、300件のヒヤリハットあるということ、子どもたちに関わる全ての人が意識して対応していくことが、いじめの防止に繋がっていくと思う。</p> <p>なし</p> <p>教育部長 閉会を宣す。</p>
--------------------------------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

他特に重要 と認める事項	なし
	<p>上記会議の顛末を記載し相違ないことを証するため、ここに署名する。</p> <p>令和5年3月14日</p> <p>教育委員 会田研司</p> <p>教育委員 岩崎万紀子</p>